

秋田栄養短期大学・学修目標への到達度セルフチェック調査報告書（令和6年度）

本調査の目的

●本調査は、秋田栄養短期大学栄養学科の教育の更なる充実のために秋田栄養短期大学栄養学科が策定している学修目標への到達度を調査した。

●学生自らが点数化した学修目標への到達度セルフチェックから、令和5年度1年生(35名)を対象に令和5年7月(令和5年度前期末)及び令和6年8月(令和6年度前期末)の知識、技能、態度の項目を定量化して経時的に検討した。

調査方法

●セルフチェック用紙を作成し、知識、技能、態度の全15項目について、1点を達成できなかった、2点をあまり達成できなかった、3点をどちらともいえない、4点をある程度達成できた、5点を十分達成できたとし、いずれかの点数で回答を得た。この点数から、知識、技能、態度の3つの区分毎及び全体の平均値を算出し、令和5年度前期及び令和6年度前期末で値の変動を評価した。

●項目毎の点数と知識、技能、態度の3つの区分毎の平均値及び全15項目の平均値を令和5年度前期及び令和6年度前期末で比較した。解析には、IBM SPSS statistics26を使用し、Wilcoxonの符号付順位検定を行った。また、 $p < 0.05$ の水準で有意であるとみなした。

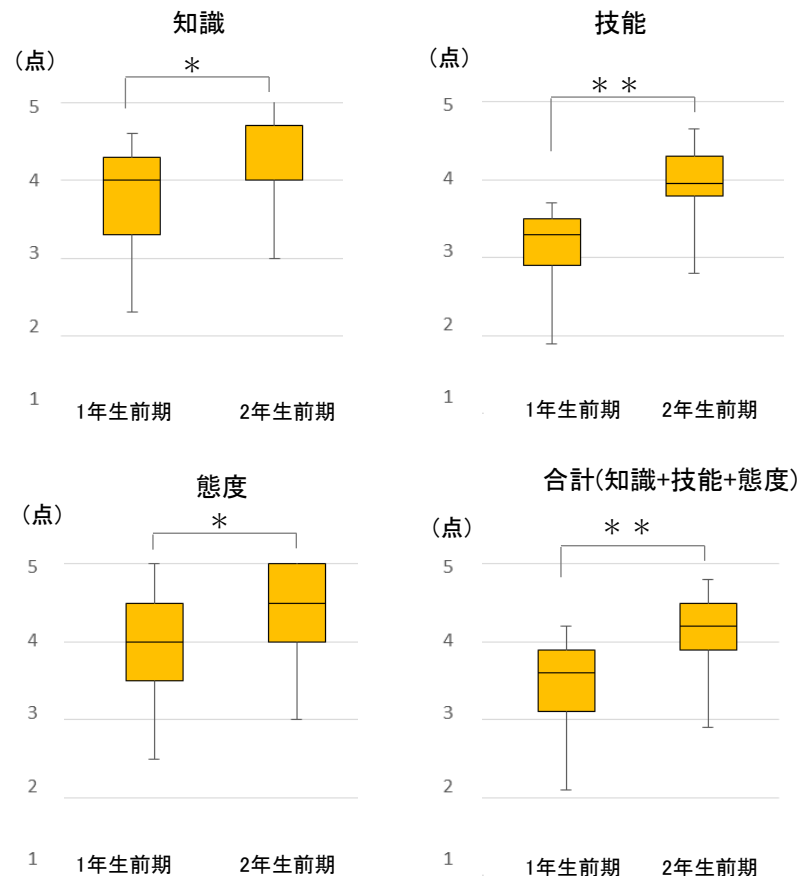


図1 知識、技能、態度の各平均値と全項目の平均値の経時的変化
平均値±標準偏差(n=35) *: $p < 0.05$ **: $p < 0.01$

調査結果及び今後の展望

●秋田栄養短期大学栄養学科の学修目標への到達度を1年次前期末(令和5年度7月)及び2年次前期末(令和6年度8月)を比較すると、知識、技能、技能及び全項目の平均値のすべてにおいて令和6年度前期末で有意に高くなっていた。これらのため、学生たちは1年次前期末から2年次前期末の間に様々なことを学び成長していることがわかった。

●本調査の結果から秋田栄養短期大学栄養学科の学生は、栄養士になるために高い意欲を持って学び、知識、技能、態度のすべての項目において成長を自覚していることがわかった。教員一同は、これまで同様に学生の学習目標達成に向けサポートします。

セルフチェック調査項目毎の（令和6年度）平均値と有意差

質問項目		1年前期 平均値	2年前期 平均値	P
知識	①健康と栄養の関係についての基本的知識を身につける	3.86	4.17	0.026 [*]
	②各科目の基礎的な事項について理解する	3.74	4.20	0.014 [*]
	③ほかの科目と関連付けて理解することができる	3.80	4.03	0.163
	知識平均	3.80	4.13	0.016 [*]
技能	①必要な事項を、口頭や文章で明確に表現することができる	3.17	3.54	0.037 [*]
	②食品の栄養などの分析に関する基礎的な技能を身に着ける	3.26	4.00	0.000 ^{**}
	③給食運営に係る技能を身に着ける	2.80	4.26	0.000 ^{**}
	④献立作成能力を身につける	2.89	4.23	0.000 ^{**}
	⑤他者へ衛生の指導ができる能力を身につける	2.94	3.66	0.001 [*]
	⑥主体的に課題を発見し、解決する能力を身につける	3.40	3.86	0.031 [*]
	⑦調理技術を磨き、現場で指示できる能力を身につける	3.14	3.77	0.007 [*]
	⑧さまざまなリテラシーのスキルを身につける	3.49	4.11	0.005 [*]
	技能平均	3.14	3.92	0.000 ^{**}
態度	①栄養士としての使命感を持ち、食と栄養の面から社会に貢献しようとする意欲と態度	3.97	4.49	0.022 [*]
	②対人コミュニケーションスキルを高めようとする態度	4.03	4.37	0.062
	③自分自身の衛生管理を徹底する態度	4.09	4.63	0.003 [*]
	④栄養に関する知識、理論を学びより深く問題を探求しようとする態度	3.86	4.23	0.050
	態度平均	3.99	4.43	0.010 [*]
	15項目の平均値	3.50	4.16	0.000 ^{**}

* : p < 0.05 ** : p < 0.01 ウィルコクソンの符号付順位検定